

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2794900023		
法人名	社会福祉法人 成和会		
事業所名	グループホーム菊水苑喜志の郷		
所在地	大阪府富田林市桜井町2丁目1835番地		
自己評価作成日	平成 30年 6月 1日	評価結果市町村受理日	平成 30年 8月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&jigyosyoCd=2794900023-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 7月 13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・1ヶ月に1階のフロア会議で利用者サービスの向上に向けた意見交換や改善策などを行っています。
- ・明るい挨拶を心がけ、話しやすい雰囲気大切にしています。
- ・夏祭り、敬老祝賀会、クリスマス会その他フロアで外出や作品作りなど「一緒に参加して楽しむ」をコンセプトにイベントを開催しています。
- ・週2回の音楽療法や習字教室も各講師を招いて実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根ざし貢献する社会福祉法人が運営するグループホームで、小規模多機能型居宅介護事業所を併設しており、近隣には同法人の特別養護老人ホームもあります。開設後10年余りの事業所で、広く明るくゆったりとしたリビングからは、周辺の緑豊かな山や田園風景が見渡せ、テラスには季節の花がある花壇や野菜や果物が植えられた菜園があり、やすらぎを感じることができます。リビングには、七夕飾りや夏祭り用の手作りの提灯飾り、壁画、楽しいな行事写真等を飾り、心が和む居心地の良い共用空間となっています。有能で経験豊かなベテラン職員は、利用者の意思を尊重し優しく接しており、家族は高い評価を与えています。音楽療法や書道、大正琴、フラダンスなど地域のボランティアとの交流もあります。食事は、毎日2〜3種類のメニューから好みのものを選択できます。利用者は、ゆったりと落ち着いた表情で過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1〜55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアに理念を掲示するとともに、毎朝の朝礼時に唱和することで意識付けています。管理者から月 1 回施設としての目標を伝え全員で実践していけるよう努力している。	職員は、法人の理念である「和顔愛語の精神で笑顔を絶やさない、今日一日の人生という自覚のもと、喜びのタネをまき、生きがいあるホームづくりにつとめる」を毎朝唱和しています。また「家庭により近い環境を目指します」「自分らしさを大切にします」「地域に根ざしたホーム作りに努めます」をホームの理念として明示しています。定例のフロア会議や毎日の業務を通じて方針を共有し、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族や地域の人たちと共に支えています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域と繋がりながら暮らし続けるよう、事業者自体が地域の一員として日常的に交流している(初詣、地域での買物や秋祭り鑑賞、市民会館でのイベント利用、散歩の際地域の方々への挨拶、飲食店での外食等)認知症カフェの実現に至っていない。	職員は、利用者が地域の一員として地域とのつながりを持ちながら生活できるような支援を心がけています。地元の神社への初詣に始まり、買い物、散歩の際には地域の人々と言葉を交わし、市民会館のイベントや秋祭りにも参加しています。河内音頭保存会による河内音頭の披露演奏を楽しむ機会もあり、定期的には大正琴、フラダンスなど地域のボランティアとの交流もあります。自治会総会に出席する機会も得ました。今後、当事業所の独自性をもって地域との連携を一層深め、「地域共生社会」の実現を目指して、さらには地域に貢献できるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域との交流は充分果たせていない。地域への働きかけ及び協力体制の整備が課題である。地域への清掃活動や夏祭りへ参加お誘いを立案しているが実践出来ていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を継続して実施している。利用状況やサービスの実際、課題、評価への取り組み状況報告し、そこで得た意見等をサービス向上に活かしている。定期的に新聞発行が出来るよう協力して取り組んでいる。	運営推進会議は2か月に1回開催しています。構成メンバーは利用者、家族、市高齢介護課職員、地域の代表者、法人代表、事業所職員等です。会議では事業所利用者の状況報告、行事の予定並びに実施報告、出席者の意見交換を行い、議事録も作成しています。ヒヤリハット、事故報告については現在議題に上げていませんが、今後は会議で取り上げ、報告検討する予定です。	運営推進会議は規定通り行われていますが、外部の出席者がやや少ない状況です。作成された議事録を利用者・家族に配布し、会議への出席を促す、あるいは地域の自治会、老人クラブ、民生委員等に働きかけて会議構成員を重層化する等、地域とのさらなる連携を念頭に考えられてはいかがでしょうか。それにより運営推進会議がさらに活性化し、サービス向上につながる活発な意見交換の場になることが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に事故報告書・入居者情報を速やかに提供することで連携を図っている。ケアマネ交流会へ定期的に参加し情報交換や地域サービスの実情を話し協力関係を築くよう努めている。	管理者は、市の担当職員と報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築いています。また、事業所が協力し自主的に運営しているグループホーム交流会に参加し、情報交換しています。計画作成担当者はケアマネジャー交流会に参加しています。市の介護相談員を定期的に受け入れています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本禁止の意識付けを行っている。エレベーター横にロック解除の暗証番号貼り出しを行っている。外出希望のある方はスタッフが外出同行している。現在 1 件が対象だが、ご家族の強い希望で実施しており身体拘束の弊害を説明した上での実施となっている。	職員は年間計画に基づき、身体拘束廃止や高齢者虐待防止について学び、意識を高めて、身体拘束のない介護を目指しています。ただ、現在やむを得ずベッドに4本柵を使用している利用者がいます。家族と職員が話し合い、家族の了解を得て、期限を設けた上で対応しています。日中は、1階入口にある扉は開錠しています。ホームから1階に通じるエレベーターには電子ロックがかけられていますが、操作盤横に電子ロックの暗証番号を表示しています。外出願望のある利用者については、見守りと付き添いで対応しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者やスタッフは、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。H29 年外部研修で講師から虐待防止研修を実施した。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やスタッフは、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合いそれらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約また改定等の際は利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に苦情相談窓口を設け、管理者及び窓口担当が迅速な対応、判断を心掛けている。	利用者・家族の意見は家族の訪問時に、あるいは電話連絡の際に必ず、聞くようにしています。家族が意見を言いやすいように状況設定には留意し、意見箱も設置しています。聞き取った意見は職員間で共有し、検討し、サービス向上、事業所の運営に活かしています。職員は利用者担当制になっており、より個別的な対応ができます。毎月末、利用料請求書送付の際には行事案内なども同封しています。季刊発行の広報誌「喜志の郷新聞」も復刊し、利用者のスナップ写真、職員の異動、消防訓練の様子など、法人から種々の情報を発信しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議やミーティングを通じてスタッフからの意見や提案を聞く機会を設け反映している。スタッフの意識やチームワーク向上に向けて1月に1回、スタッフ2名ずつ順番にテーマを元に内部研修を行っている。定期的に管理者とスタッフ面談を重ね職場環境の適正化に努めている。	職員は、定例のフロア会議や日常の業務の中で業務の改善事項や課題について話し合い、提案し実行しています。有能で経験豊かなベテラン職員は、利用者の意思を尊重し優しく接しており、家族は高い評価を与えています。新任の管理者は、利用者が安心してゆったりと過ごせるよう、職員が利用者に寄り添う時間を増やす工夫をしています。また、管理者と職員は定期的に面談する仕組みがあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の労務環境、個々のやりがいに対しての向上心を観察、相談を行い改善すべき点は改善に努め、ご利用者様、スタッフが共に良い環境作りになるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者やスタッフ1人1人のケアの実際と力量を把握し、法人内・外部研修を通じて個々のスキルアップに努めている。また報告書でスタッフにフィードバックして情報交換している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者やスタッフが同業者と交流する機会を作りネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じてサービスの質向上させていく取り組みをしている。富田林グループホーム交流会に参加している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望等を伺った後施設見学をして頂き、サービス内容説明し十分な理解をしてもらった上でサービス提供を行っている。必要に応じ自宅面談を行い関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に要望を伺い適切なアドバイスを行い、少しでも不安軽減を図る。いつでも相談できるような関わりを大切にしている。初期には定期連絡を密に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階で、本人、家族等がまず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にスタッフが本人に寄り添い関わりを大切にしている。スタッフと利用者が家族のような関係性を築くようにして自立支援に繋がるようなケアを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時家族との連絡を図り施設での生活状況を電話、面会で報告している。また面会時に近況での生活状況を報告し関わりが深く持てるような支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出希望への対応を行っている。本人に馴染みがある方との面会、電話などの関わりを大切にしてお互いの関係性が継続できるような支援に努めている。	職員は、利用者の知人がホームを訪ねる時や併設の施設で友人と一緒に行事に参加したい時に支援しています。また、利用者が行きつけの洋装店に買い物に行きたい時にも支援をして、利用者の思いを叶える等、利用者が大切に思う馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り利用者同士が一緒に関わる環境作り、孤立しないように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も定期的に電話連絡を行い困りごとがないか、相談しやすい環境作りを心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望や意向を聞き出せる環境作りを大切にして思いに寄り添えるよう支援している。また自己主張出来ない方へ普段の仕草等を観察し思いを理解するように心掛けている。	当初のアセスメントやその後の暮らしのなかで、利用者と家族から聞き取ったり、利用者の表情やしぐさから汲み取った希望や思いをアセスメントシートと職員間の連絡ノートに書き込み、職員間で情報を共有化する努力をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、過去のサービス機関からの情報を収集しアセスメントシートに記載し情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタル測定、日々の体調観察を行い変化などは連絡ノートで申し送りスタッフ全員が把握するよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心になり本人、家族と相談し介護スタッフから現状生活状況を聞き毎月のモニタリング評価している。必要性があれば再検討を行い3ヶ月に1回を目安に計画作成を行っている。	介護計画は3か月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。計画作成担当者は毎月個別介護計画のモニタリングをして評価し、カンファレンスで報告しています。3か月毎にモニタリング結果をまとめ、家族にも説明して介護計画の見直しにつなげています。ただ、介護計画の職員への徹底や援助内容のモニタリングの記録の取り方に工夫の余地があります。	介護計画については、介護計画の個別の援助項目の職員への徹底の仕方や、職員による日々のモニタリングの記録の取り方の改善をされてはいかがでしょうか。徹底策の一例として、利用者毎の日報用紙に介護計画の援助内容を盛り込み、実践内容を計画と関連付けて日々記録するなどの方法を検討されてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録はパソコン入力にて情報共有すると共に連絡ノートにも転記し連携を図っている。特記事項や日々の気付き観察を参照に計画作成担当者は計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の気持ちや意向を尊重し、本人に対して出来ないことを出来るようにするのではなく、出来ていることを継続出来るように支援している。その為に様々な視点からサービスを導き出すよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民会館等で行われる催し参加や訪問散髪サービスを受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理医師から毎週 1 回往診を受けて日々の健康管理を行っている。また今まで通院していた医療機関へ継続して受診出来るよう通院同行して連携を図っている。	大半の利用者は、訪問診療の内科医師の週1回の診療を受けています。以前からのかかりつけ医やその他の診療科目について受診が必要な時には家族の同行が原則ですが、必要の都度職員が通院介助を行っています。協力医療機関と連携し、急変時対応についての体制も整備しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化等があれば小規模多機能所属看護師へアドバイスを求めたり、緊急時にも適切な対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	今までかかりつけ病院との関係は維持してもらいつつ、必要時に通院の付き添いを行っている。入院後も定期的に面会を行い、主治医、担当看護師に状況報告を受け情報共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的にターミナルケアは実施していない。ただ重篤化する前から管理医師と連携を図るとともに家族には今後予測される状況を理解してもらっている。重篤化した場合は計画作成担当者が中心となり担当医、家族との連携を図り柔軟な対応を取っている。	ホームでの看取り実施の方針はなく、重度化した時には、特養を含め法人全体で対応するよう体制を整えています。利用者が重度化しても可能な限りホームでの生活が継続できるよう、サービス開始の早い段階から利用者や家族の意向を聞き、方針の共有を図っています。利用者の状況の変化に合わせてその都度、利用者や家族、医師と話し合い、対応していく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年消防署にて初期救急対応の講習を受けて緊急時の対応について意識付けを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年 2 回の消防訓練の実施を行っている。また災害時にはマニュアルに沿って行動出来るよう意識付けている。	年に2回、夜間想定も含めて火災・災害避難訓練を消防署の指導・承認のもとに実施しています。前回の外部評価受審以降、水の備蓄だけでなく食料品の備蓄についてもスタートし、順次計画的に増量していく予定です。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者 1 人ひとりの尊厳を守りプライバシーに配慮した関わりや声掛けを行うよう努めている。	職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシー、尊厳を損ねないよう配慮して、丁寧でやさしい雰囲気をもって接しています。職員は年間計画に従い、プライバシーや接遇、人権の研修を受け、意識の向上に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	本人に決めて頂きたいことについては、出来る限り本人の意思を引き出せるように声掛けにて促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1 人ひとりの生活スタイルを重視しその人に合った生活リズムを送ってもらっている。食事に関しても希望があれば延食対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に清潔を維持出来るように身だしなみを整えてもらい毎朝起床時には温タオルを手渡し洗顔を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月面前提供を各フロア順番に行い食の楽しみを感じて頂いている。通常食事は日替わり定食、麺類、丼から選択して頂いている。食後の片付けも出来る方には下膳をお手伝いして頂き常にスタッフと一緒に行動を共にしている。	食事は同法人の特養から調理した状態で届き、利用者、職員が一堂に会して食しています。朝食は和・洋から、昼食は和定食・麺類・丼の3種類の献立から、夕食はメインの料理を2種類から選ぶことができます。月1回は利用者の面前で調理することもあります。食事は利用者の状況に合わせて食べやすい形にして提供しています。食事介助を受けている利用者もあります。ベランダの菜園で収穫した野菜が食膳に上ることもあります。利用者はできる範囲で食器を下げる、片付けを手伝うなどしていますが、時には職員ともども献立から考え調理に腕をふるうこともあります。ベランダで桜を眺めながらお花見弁当、お寿司の日、誕生日会の特別食、バーバキュー大会、夏の流しそうめん、冬のおでんパーティ、鍋パーティなど、様々な企画で食事の楽しみを支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは管理栄養士にて管理されている。食事量、水分摂取量は記録で把握している。水分補給できる機会を多く作りこまめに水分摂取して頂けるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを施行している。その際口腔内のチェックを行なう。本人、家族の希望があれば毎週 1 回訪問歯科の往診を受けて口腔内チェックを行って頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導を行い出来る限りトイレでの排泄を促し実施している。立位が出来ずにオムツ対応している方でも排泄機能を検討し自然排泄が安全に出来るように努めている。	比較的重度の利用者が多い中で、排泄記録を取り、利用者一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握し、しぐさや表情から状況を判断し、声かけや誘導、見守りによりトイレで排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には定期的に野菜ジュースや牛乳提供し自然排便を心掛けている。併せて下剤にて排便を促す対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状の体制で毎回希望時の入浴対応は出来ていない。お 1 人おひとりの入浴前にお湯を入れ替え快適でゆったり寛げる環境を提供している。	平均して週2回の入浴ですが、入浴希望の強い利用者についてはその都度対応するとともに、皮膚疾患の利用者は週5回入浴しています。季節を感じてもらうため、菖蒲湯やゆず湯も実施しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	本人からの訴えが難しい方へは 声掛けにて離床、臥床を促し安 眠休息出来る時間を設けている。 昼夜逆転にならないよう離床時 間を考え対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	薬情報をフロアで管理し作用、 副作用を確認している。又 Dr 往診時に新しく処方される薬は 注意点等を確認し、薬剤師から アドバイスを頂いている。内服 は誤薬防止の為全介助で服薬し て頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	月 1 回の行事参加、おやつ作 りなどに参加して頂き、フロア に飾ってある壁画と一緒に作成 し楽しい雰囲気になるよう努 めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人より希望があった場合、また自分で訴えられない方も季節に合わせた外出行事を行うとともに、随時外出支援を行っている。近隣に自宅がある方で本人希望がある場合は自宅まで散歩同行を行なった。	利用者の状況に配慮しつつ外出支援を行っています。利用者の高齢化、重度化も進み、簡単には外出しがたい状況もありますが、気候の良い時には積極的に外気浴、気分転換のために散歩、近隣への買い物、ファミリーレストランで女子会など、利用者の希望による外出も行っています。ホームが計画を立てて行う花見、遠足など季節的な外出行事は、全員参加の目標で取り組んでいます。100歳を越える利用者も車いすで皆と一緒に外出行事に参加しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所有している方はおられるが、基本買物への支援は提供出来ていない。但し受診時に現金支払いのお手伝いを一緒に行って頂いたことがあった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人より依頼があれば電話や手紙でやりとりが出来るよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に安全・清潔が維持出来るように毎日の掃除を行い、居心地の良い空間作りに努めている。	広く明るくゆったりとしたリビングからは、周辺の緑豊かな山や田園風景が見渡せ、やすらぎを感じることができます。テラスには季節の花がある花壇や野菜や果物が植えられた菜園があります。ここでは外気浴をしたり、隣接する公園の花見や有名な夏の花火も楽しむことができます。リビングには、七夕飾りや夏祭り用の手作りの提灯飾り、壁画、手芸作品、書道作品、楽しい行事写真等を飾っています。少人数で落ち着ける椅子やソファを設置しています。広くゆったりとした廊下の隅にもソファと椅子、テーブルを配置するなど、心が和み居心地の良い共用空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活室にテーブル、ソファを設置し談話や面会時ゆったり過ごせるような環境を提供している。1人で過ごしたい時は廊下にあるソファに座りゆったりされている方もおられる。壁に季節に合わせた貼り絵や行事写真を展示することで共通の話題で話したりリラックスしてもらえる工夫を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に名前や写真を貼って自分の部屋であると分かるよう工夫している。今まで使っていた馴染みのある物を使って頂き居心地の良い環境作りに努めている。	窓が大きく周辺の緑が見渡せ、広く明るい居室の入り口には飾りつけられた利用者の顔写真が貼られ、家族が持ち込んだ暖簾がかけられています。利用者は、飾り棚や机、椅子、ソファ、花、ぬいぐるみ、家族の写真、漢字ドリル、書籍、書道作品、手芸作品、帽子、外出着、テレビ等を持ち込むなど、居心地の良い個性的な居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り危険物を取り除き安全確保をした上で出来ることを伸ばし自立に向けた支援を心掛けている。		